

君津市立周西中学校

二年

釋水

那那

「さきま盛りとおはあちん

「なほちん、さきま盛りにしとるけ

んね。

「はい、食べて大きくならんといけんよ。

「そう言っ、て、お寺で働く知り合いのおはあち

人達が差し出してくれたお茶碗には、マンガ

に出ってくるような山盛りのごはんが盛られて

いた。

「こんな食べきれんよー。」

私がそう言っ、ても、おはあち人達は決して

ごはんの量を減らしてはくれない。

長崎県にある、五島列島最大の島、福江島

の崎山地区では、崎山盛り（おはあち人達

はさきま盛りと少しなまっ、て発音する）

というごはんの盛り方がある。崎山地区では

昔からお米があまり採れなかつたので、お客

様をおもてなしする際に、貴重なお米を山盛

りにして出すのが最大のおもてなしだっ、た、

と崎山地区出身の方に教えてもらっ、た。千葉

県に引越す前、福江島に住んでいたころは僧侶である父と一緒に、お寺でごはんをいたただく機会がよくあり、その度に崎山地区出身のおばあち<sup>ち</sup>人達は、ニコニコの笑顔で、崎山盛りのお茶碗を私に差し出してくれた。小学生だった私には量がとても多く、いつも残してしま<sup>っ</sup>て申し訳なかつたのだが、おばあち<sup>ち</sup>人達は嬉しそうに、残<sup>っ</sup>たごはんをおにぎりにして、無理やり私の荷物に押し込んで持ち帰らせてくれた。

また、年に何回かあるお寺の集まりでは、おばあち<sup>ち</sup>人達が作<sup>っ</sup>てくれた料理と一緒に、もち米の入<sup>っ</sup>たおにぎりが出てくる。五島列島の農産物を使い、少し甘めに味付けされた料理が、たくさん並ぶ中で、もちもちした、そのもち米入りのおにぎりが私達き<sup>ょ</sup>うだいの一番人気で、おかずも食べなさい<sup>よ</sup>。といつも父や母に怒られた。

祖父母と離れて暮らしたなか、なかなかに祖父母に

祖父母に会えない私達きょうだいにとつて、  
お寺に来るおばあち<sup>ち</sup>人達と一緒に食べるご  
はんは特別楽しい時間だ。たので、お寺で聞  
いたありがたいお話はあまり覚えていない。  
（本当は全然覚えていない）けれど、私に崎  
山盛りのお茶碗を差し出してくれたおばあち<sup>ち</sup>  
人達の笑顔は、きっとこれからもずっと忘れ  
ることはないだろう。千葉に引越してから  
も、ときどき電話をくれるおばあち<sup>ち</sup>人は  
コロナのせいでお寺人集まりもないと。み  
んなに会えんけんさみしかよ。  
と言っていた。みんなが集まって、美味しい  
ごはんを囲み、たくさんお喋りすることがで  
きないというのは、とても寂しく残念なこと  
だ。今住んでいる千葉県は日本でも有数の米  
処で、普段の食卓に出るお米もすごく美味し  
いので、私はいつも  
ピーナッツ味噌と千葉のお米でますます太  
りそう。  
と言いながらこっそりお代わりをしている。

そんな私の将来の夢は、管理栄養士になることだ。管理栄養士の資格を取って、いつか五島列島で働きたいと思っ<sup>て</sup>いる。小学生だ。た私をたくさん笑顔にしてくれた五島列島の優しいおばあちゃん達に、いつか千葉県のお米で崎山盛りのお茶碗を差し出して、今度は私がおばあちゃん達を笑顔にしたい。